

「私たちの主役は利用者さんですね」

～多職種連携で対象者と家族の
在宅生活を支えるために～



フォーレスト訪問看護ステーション
所長 黒田 公子

I. チームケアの歴史

- 1960年WHOで包括医療 総合保険医療の考え方が登場
- 1973年プライマリ・ヘルス・ケアに関する発表
地域社会を基盤とした健康増進・予防・治療・
リハビリテーションを一本化した包括医療システム

日本では・・・

S50年代より 市町村保健センターを拠点とした高齢者の
対人サービスが行われ住民ニーズも多様化
する中で福祉領域との連携が望まれていた

Ⅱ. チームケアの必要性

健康問題・介護・看護・家族・住居・生きがい、
経済問題など

多様なニーズ



必要な専門職が統一・継続して、
チームとしてケアを提供することが大切



Ⅲ. チームケアの展開

1. チームケアとは

二人以上で集まり情報を交換し、
同じ目標に向かって何かを行ったときに
チームといい、その何かがケアである



2. チームの目標設定

- ①その対象者がどうなったらいいか
- ②目標は対象者と家族の希望に合致したものであること
- ③チームを形成する職種、機関の範囲で出来る目標を掲げること



3. メンバーシップとリーダーシップ

- ①誰もがリーダーである
- ②一人一人がチームを形成する一員であることを認識すること
- ③メンバーが積極的に参加するかが鍵になる
- ④権限を他のメンバーに任せることができる
- ⑤自分自身の正しい理解と評価ができること



4. 各メンバーの持ち分を守ること

各専門職・各メンバーがその持ち分をきっちりと行う事。それが、崩れるとチームケアは成り立たなくなる。

5. 共通言語で話そう

お互い相手にわかるように話す姿勢をもとう。



6. 各メンバーの考え方を調整する

利用者さんにとって何が一番かという一点で接点をさぐる

7. 意見対立の解消

じっくり根気強く、カンファレンスの実施



IV. チームケアの実際例

- 医療機関から地域スタッフへ
事例紹介

- 在宅での地域スタッフ間の連携
事例紹介



V. チームケアを成功させるポイント

- ①みんなの気持ちを一致させよう
- ②対象者・家族に自己決定を
- ③専門性を理解し、認める
- ④役割・機能を見据えよう
- ⑤専門性を高めよう
- ⑥オープンな環境づくりに取り組もう
- ⑦コミュニケーションの良否がチームワークを左右する
- ⑧情報の共有化をはかる
- ⑨利用者・家族との相互理解に努めよう
- ⑩長期戦では無理はしない
- ⑪気配りの大切さ

VI. 最後に

シームレスケア

(包括的、継続的、継ぎ目の無いケア)

を目指しましょう。

